



(1) Kyushu University VISION 2030

九州大学が目指す「総合知で社会変革を牽引する大学」を実現するために策定したビジョン。指定国立大学法人の指定申請を契機に、九州大学の未来を担う若い教職員を含めた全学的な議論を重ねて得た今後10年間の大学の方向性、方針を示したもので、「ガバナンス」「DX」「教育」「研究」「社会共創」「国際協働」「医療」「財務基盤」の8つのビジョンからなる。

(2) 2つの基盤組織とプラットフォーム

「未来社会デザイン統括本部」は、九州大学の研究上の強みである「脱炭素」「医療・健康」「環境・食料」の3領域を中心に、多様化・複雑化する社会的課題の解決に貢献する役割を担う。「データ駆動イノベーション推進本部」は、データ活用により分野を超えた新たな価値を発見・創出する総合知のプラットフォームとして機能し、データ駆動型の教育、研究、医療の展開と、未来社会のあるべき姿をDXの視点から提案する役割を担う。「オープンイノベーションプラットフォーム」では、将来の課題探求から研究成果による社会実装までの道筋を産学官民の連携によって検討し、共同研究や大学発ベンチャーの創出拡大につなげ、九州大学の研究成果を社会に還元する。研究成果の社会への還元を加速化させるため、2024年4月に外部法人「九大OIP株式会社」を設立。

(3) 研究成果の社会実装

九州大学が取り組む3つのエントリポイントでは研究成果の社会実装も進んでおり、「脱炭素」では大阪・関西万博でも展示されたナノ分離膜を用いたCO₂の回収・濃縮技術で、「医療・健康」ではマンナン被覆粒子を活用した次世代のアレルゲン免疫療法製剤開発などで、スタートアップを創出。「環境・食料」においても、低農業・低肥料で高収量・高付加価値の次世代食料生産技術の社会実装に向け、スタートアップの設立を予定している。

不確実で予測困難な時代に 未来を切り拓く新たな価値を創造する 「総合知で社会変革を牽引する大学」

九州大学は、1911年の創立以来、初代総長・山川健次郎氏の訓示「己が専門の学問の蘊奥（うんのう）を極め、合せて他の凡てのことに一応の知識を有して居らんで、即ち修養が広くなければ完全な士と云うべからず」に基づき、専門知の深化とともに、幅広い学問領域の学修を重視する精神を大切にしてきました。

2021年には「指定国立大学法人」への指定を契機に、2030年に向けた大学の目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げ、その実現に向けた多様な取り組みを具体化する「Kyushu University VISION 2030⁽¹⁾」を策定しました。国内最大規模を誇る伊都キャンパスを中心に、複数分野の「知」の融合を一層加速し、社会変革を目指した教育・研究を展開しています。

国立大学最多の学部数を有する本学で、それぞれの専門知を身につけるとともに、アントレプレナーシップ教育や課題解決型教育を通じて、多様な知と触れ合いながら、共に社会を、そして未来を変革していきましょう。

九州大学

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744 学務部入試課 TEL 092-802-2006 <https://www.kyushu-u.ac.jp/>

**複眼的な「総合知」で教育・研究と
未来を拓く社会実装を推進**

九州大学は今日まで114年間の歴史と伝統の中で育まれ培われた叡智により、高い水準の教育と最先端の研究を進めてきました。2021年には世界最高水準の教育研究活動の展開が見込まれる大学として、国から「指定国立大学法人」の指定を受け、同時に「Kyushu University VISION 2030⁽²⁾」を策定し、目指す姿として「総合知で社会変革を牽引する大学」を掲げました。

「総合知」とは、九州大学が持つ人文社会科学系から自然科学系、さらにはデザイン系の「知」も組み合わせ、多様な視点で課題の解決に導く新しい知識や斬新な考え方を意味します。この複眼的な「総合知」を導き出し、教育・研究はもとより、社会変革に貢献しています。

そしてこのビジョンの実現のために、3つの基盤組織として「未来社会デザイン統括本部」「データ駆動イノベーション推進本部」「オープンイノベーションプラットフォーム

（OIP）」を作り、総合知の創出から社会実装までを一体的に推進しています⁽³⁾。

「総合知」によって生み出された多種多様な研究成果を社会へと繋ぐために、大学と産業界の橋渡しとしての役割を果たすのが九大OIP株式会社です。九大OIPでは、昨年11月にイノベーションチャレンジファンドを創設し、九州大学の研究者や学生によるスタートアップ創出を支援するなど、多様な産学官連携の取り組みを推進しています。

また、九州大学ロバート・フアン／アントレプレナーシップ・センター（QREC）を中心に、アントレプレナーシップ教育を通じて学生の挑戦を後押しし、新たな価値を創造する人材の育成に注力しています。多様な「知」を持った学生同士の協働や、複雑に絡む社会課題へ挑戦する機会を提供し、予測困難な現代社会の中で活躍する人材を社会に輩出しています。

**文理融合と国際教育で
「価値創造人材」を世界に輩出**

九州大学は、優れた若手研究者の育成を重要な使命と位置付け、2023年4月に設置した「未来人材育成機構」の主導により、高大接続から博士課程修了までの一体的な改革を推進しています。

高大連携事業としては、次世代の傑出した科学技術人材を育成する「九州大学未来創成科学者育成プロ

例えば、「脱炭素」については、

伊都キャンパスを「実証実験キャンパス」として、クリーンエネルギー社会実現に向け産学官連携によるさまざまな研究プロジェクトを実施しています。燃料電池自動車に代表される水素エネルギー研究、分離膜を用いた大気中CO₂の回収技術研究、通常は焼却処分される廃プラスチックについてマイクロ波を基盤とする炭素変換技術を用いて再生プラスチックに変換する技術の開発など、脱炭素社会の実現にチャレンジしています。ここに、経済学や都市デザイン学などの文系、デザイン系の知を融合し、これらの技術を活かした脱炭素社会の実現に向けた社会デザインにも取り組んでいます。

また、「医療・健康」では昆虫のカイコを活用したワケチンの原料としての医療用タンパク質の開発、「環境・食料」では高度センシング技術やドローンなどを活用したスマート農業による生産性や効率性の向上に取り組むなど、異分野融合で社会的課題の解決にあたっています。

その他、注力している領域は、「半導体」です。世界的半導体メーカーTSMCの熊本県進出を契機に、いま九州全域で新生シリコンアイランド九州実現への気運が高まっています。九州大学では2023年に熊本県、熊本大学との間で半導体分野における研究推進や人材育成・確保などについて包括的な連携協定を、2024年にはTSMCとの間で、



ジェクト（QFCSIP）や女子高生対象の理系インターンシップ「九州大学QURIESプログラム」などに取り組んでいます。これらをはじめとする高大連携事業を修了し、高い研究意欲と能力をもつて入学してきた学生に、早い段階から研究に打ち込める環境と、より研究意欲を高める機会を提供するため、新たに学士から博士課程まで通貫する「次世代博士人材育成コース」を2027年4月に設置する予定です。このコースの学生を選抜するため、「次世代研究者発掘入試」を2027年度入学者選抜（26年度実施）から工学部（一部学科）と農学部で実施する予定です。

また、価値創造人材の育成として、社会の複雑な課題を解決できる能力を養うため、文理融合型教育にも取り組んでいます。

その一つが、大学院における文理融合型学位プログラムのフラッグシップモデル「マス・フォア・イノベーション卓越大学院プログラム」です。このプログラムでは、研究科等連携課程の枠組みを利用したマ

研究および人材育成における協力関係を発展させることを目的に、包括的な連携の覚書を締結しました。また、同年に全学的な体制の下「半導体・デバイスエコシステム研究教育センター」を設置し、デジタル化と脱炭素化の両立を図る半導体・デバイスの実現を目的とした研究・教育を進めています。

このように、多種多様な学問領域に、基礎的な知識基盤研究から、実際に社会に実装することを目指した技術統合研究まで展開できるのが、九州大学の強みとなっています。

**26年度以降は入学者選抜の拡充も
未来を拓く九州大学とともに学ぼう**

社会的課題を解決するためには、個人がさまざまな学問分野の知見を深めることはもちろん、異なるバックグラウンドを持つ人たちと協働し、課題解決に取り組むことが不可欠です。九州大学では、そうした人材を育成するための環境や本学独自の経済支援制度、多彩な教育プログラムを用意しています。また、2026年度以降の入試では、思考力や表現力を重視した総合型選抜や学校推薦型選抜をさらに拡充し、2027年度からは前出の「次世代研究者発掘入試」により、将来の研究者育成に力を入れています。

予測困難で不確実な時代だからこそ、「総合知で社会変革を牽引」する九州大学で、一緒に学びを深めましょう。

*ジョイント・ディグリープログラムは、2024年4月から人間環境学府と釜山大学校（韓国）、2025年4月から総合理工学府とアントワープ大学（ベルギー）との間で開始されている。